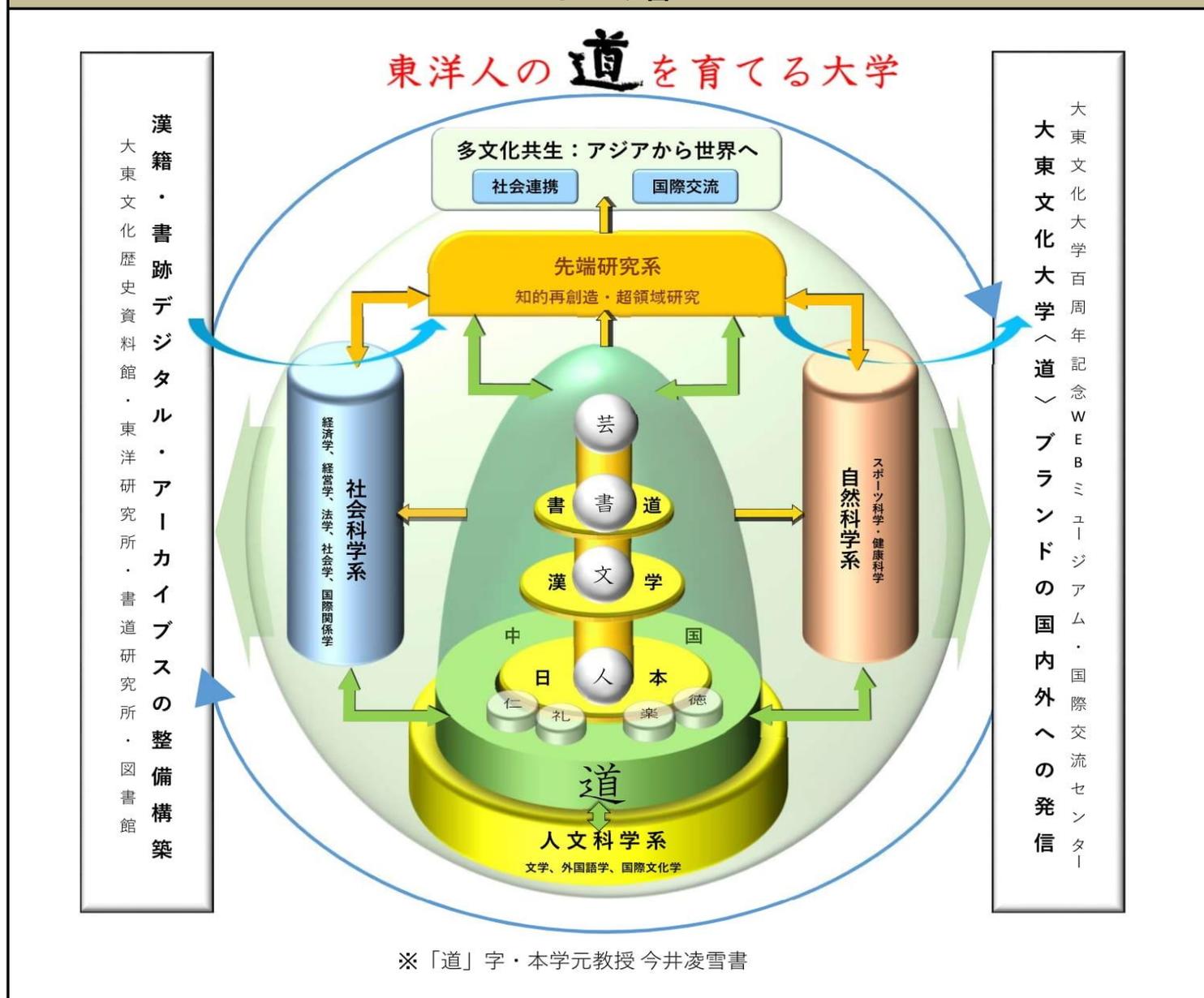


平成30年度私立大学研究ブランディング事業計画書

1. 概要（1ページ以内）

学校法人番号	131045	学校法人名	大東文化学園		
大学名	大東文化大学				
主たる所在地	東京都板橋区				
事業名	漢学・書道の学際的研究拠点の形成による「東洋人の道」研究教育の推進				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	10595人
参画組織	文学部、経営学部、スポーツ・健康科学部、文学研究科、東洋研究所、書道研究所、大東文化歴史資料館、図書館、国際交流センター				
審査希望分野	人文・社会系	○	理工・情報系	生物・医歯系	
事業概要	現代社会が直面する人文主義の諸問題に、東洋の“道”と“書”の思想と芸術の立場から提言を試みる。建学以来、「漢学・書道の大東」として培ってきた東洋人の知的資源（漢籍・書跡）を基盤とするデジタル・アーカイブスを整備・構築し、東洋人の“道”の学際的研究拠点としてのイノベーション研究を行い、全学的研究機構を設置して国内外に向けて発信することにより、「東洋人の“道”を育てる大学」というブランド確立を目指す。				

イメージ図



2. 事業内容（2ページ以内）

（1）事業目的**■事業目的**

本事業は、大東文化大学（以下、本学）の最も大きな特色の一つである「漢学・書道」を中心に展開する。その目的は、建学以来継承されてきた「漢学・書道」に関する知的資源を基盤とするデジタル・アーカイブスを整備・構築し、これを学際的に発展させ、東洋人の思想、すなわち「東洋人の“道”〈ヒューマニティー〉」思想に係る世界的なイノベーション研究拠点となることにある。研究成果を国内外に発信し、教育へと還元することで、本学の建学の精神に謳う「儒教に基づく道義」に根差した「東洋人の“道”を育てる大東文化大学」というブランドイメージの定着を目指す。

【本学、外部環境、社会情勢等に係る現状と課題の分析】**■東洋人の“道”と社会情勢**

現代社会は科学技術の発展により、高度で便利な生活を獲得してきた一方で、テロ行為、企業の不祥事、自死率の上昇、高ストレス社会など、伝統的な道徳観・倫理観の喪失や、これまで考えられなかった事態が不断に起きている。このような不確実性の時代を生き抜くには、思考力や判断力、多様性への理解を育むと共に、モラルの涵養が必要不可欠である。本学の建学の精神は、「漢学（特に儒教）を中心として東洋の文化を教授・研究することを通じて、その振興を図ると共に儒教に基づく道義の確立を期し、更に東洋の文化を基盤として西洋の文化を摂取吸収し、東西文化を融合して新しい文化の創造をめざす」ことにあり、さらに現在は「アジアから世界へ多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」を大学の理念として掲げている。この建学の精神と理念を背景に、これまで蓄積してきた「漢学・書道」に関する豊富な資源と研究を振興し、現代社会が直面する“道”〈ヒューマニティー〉と“人文主義”〈ヒューマニズム〉の諸問題に提言すること、これこそが本学の喫緊の課題であり使命である。

【現状と課題の分析を踏まえた研究テーマとの関連】**■東洋人の“道”と漢学・書道との関連性**

東洋の“道”と“書”の思想と芸術の立場から提言するテーゼは、『論語』述而篇の「子曰わく、道に志し、徳に拠り、仁に依り、芸に遊ぶ」に依拠している。孔子のこの考え方は、「仁徳」や「礼楽」の人間性・精神性を重んじる人道、道義の「道」として、東洋人の“道”の思想基盤を形成してきた。日本では、この“道”の思想は、古来より現代まで主として「漢学」がその根幹となって継承されてきた。さらに、中世の書道・歌道・花道・茶道といった芸道の世界から、近世の柔道・剣道・弓道といった武道の世界まで、“道”の思想がその精神的支柱となって継承されてきた。一方「芸」は、古代中国以降、「礼楽射御書数」（『周礼』）が六芸（六科目）の名のもとに、貴族の子弟が学ぶべき最も重要な教養であると意識されてきた。この「書」は、識字・写字を意味するが、現代日本では明治以来の「Art」の翻訳語として「芸術」の意味に転化している。現代では中国「書法」、韓国「書芸」、日本「書道」と呼称は異なるが、根本は技芸・技能の一つであるのみならず、識字・写字を通して培った教養（『論語』にいう「芸」）としての「書」であることは共通している。

【大学のブランド（独自色）として打ち出すための研究テーマとして選択した理由】

先に述べたとおり、本学では、その建学の歴史とともに「漢学と書道」を中心にアジアの文化的かつ人文的研究・教育を積み重ねてきた。加えて、創立百周年に向けた将来基本計画「DAITO VISION 2023」において、「アジアから世界へ多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」を、建学の精神を踏まえた大学の理念として掲げている。創立95周年を迎える本年から、百周年記念事業の柱としてアジアに軸足を置いた全学的研究支援体制を整備し、建学の精神に謳う「儒教に基づく道義の確立」を期して、東洋人の“道”思想、東洋の“人文主義”文化を基盤とする教育・研究事業に取り組んでいくことが決定している。その根幹であり、中心となるのが「漢学・書道」研究であることから、「漢学・書道の学際的研究拠点の形成による『東洋人の“道”』研究教育の推進」を研究テーマに選定した。

【大学の将来ビジョン】

本学では2013年の創立90周年を契機に将来基本計画「DAITO VISION 2023」を策定（2014年）し、学内外に広く周知した。建学の精神を踏まえ、教育面では「主体的な学びにより、大東学士力を育てる『教育の大東』を実現する」、研究面では「国際的な学術・教育のネットワークの拠点となり、世界に向けて発信する」等のビジョンを掲げ、「すべての学生が確かな学力と人格を獲得し、信頼される社会人として巣立っていくことが出来るような教育力のある大学」を目指している。

（2）期待される研究成果**【期待される成果、貢献・寄与する範囲の明確性と全学的な優先課題としての適切性】**

本事業を推進するため、8つの「プロジェクト」チームを構成する。

A「漢籍のデジタル・アーカイブス化」チーム：文学部(中国文学科)・文学研究科(中国学専攻)・図書館・国際交流センター

B「書跡のデジタル・アーカイブス化」チーム：文学部(書道学科)・文学研究科(書道学専攻)・図書館・国際交流センター

本学が所有する貴重書（漢籍・書跡）に係る特別資料を中心としたデジタル・アーカイブスの構築。これら所蔵品の一部はすでに目録を刊行しているが、なお未刊行が多い。知的資源（漢籍・書跡）の総点検と精査を行い、本学を始め国内外研究者の活用を促進するとともに、中国・台湾等海外の研究教育諸機関（中国社会科学院歴史研究所、中国美術学院、国立臺灣藝術大學など）とも連携して、デジタル・アーカイブスを基盤とする〈中国学〉、〈書道学〉のイノベーション研究拠点を形成する。

C「自校史教育・研究の推進」チーム：大東文化歴史資料館・百周年記念事業準備委員会

漢学・書道研究に貢献した教員の活動や業績等を調査・研究することによって、本学の教育史（自校史）を再認識し、創立以来、近100年の日本漢学と日本書道における位置づけや、漢学・書道において本学が果たした役割を明らかにし、在学生・卒業生の自校史教育に寄与させる。

D「道研究」チーム：文学部・人文科学研究所（文学部附置研究所）

“道”と“書”をめぐる漢学・書道の知的資源の基盤整備を行い、中国美学の観点から「東洋人の“道”」思想を明らかにするための学際的研究拠点を形成することで、本学が“道”と“書”という分野のリーディング大学であるという地位の確立をめざす。

E「東洋学研究的基礎的読解技術の確保と研究交流の活性化」チーム：東洋研究所

漢籍を中心とした東洋学研究的原典資料に対する整理・読解を行い、その訳注などを公刊する。以て、各研究分野の基礎を確保し、他者との対話の方法を確立することによって、より実証的な研究成果に対する学術的貢献を果たす。また、グローバル社会における異文化への理解を支援するとともに、東洋文化を継承する国内外の研究者を育成することで、研究交流の活性化を企図する。

F「拓本コレクションのデータベース化」チーム：書道研究所

宇野雪村氏（本学元教授）寄贈拓本類、西林昭一氏（跡見学園女子大学元教授）寄贈新出土拓本類に高島文庫（故高島菊次郎氏（王子製紙元社長）の旧蔵書）・杉村文庫（故杉村勇造氏（本学元図書館長）の旧蔵書）中の拓本類を加えた拓本コレクションのデータベースを構築する。研究成果に基づき、参考文献、地名、人名、事項等が検索可能な総合データベースを整備することにより、国内外の研究者のみならず、書道担当現職教員の教育インフラ整備に資することとなる。

G「経営学と“道”の研究（経営道）」チーム：経営学部

学問・教養としての「漢学・書道」ととどまらず、「東洋人の“道”」思想に係る研究を経営・企業倫理に拡張、企業経営における東洋思想の活用を探求する。

H「書道とスポーツ・健康科学の研究（書道の科学）」チーム：スポーツ・健康科学部

書道の「芸道」としての技芸・技能に着目し、AI（人工知能）では解明し得ない精神的・感性的な内面を、運動学・生理学などの観点から科学的な分析・考察を行い、主として書道を専門としない小学校・中学校教員に対して、書写・書道教育指導方法の普及に寄与させる。

A～Fのプロジェクトチームが、“道”と“書”をめぐる漢籍・書跡の「知的資源の学術芸術文化研究の基盤整備」と「学際的イノベーション研究拠点の形成と推進」を行い、さらにG「経営道」、H「書道の科学」の2チームとの共同研究により、人文科学系を主とする研究成果を社会科学系・自然科学系の研究と連環させ、「東洋人の“道”」思想、「東洋の“人文主義”」文化に係る学際的イノベーション研究拠点の形成を展開する。

【本事業の趣旨に則った研究テーマであることの確認】

本事業は、人文科学領域の学術研究を主体とするが、「東洋人の“道”」思想、「東洋の“人文主義”」文化を研究することにより、経営学を始めとした社会科学領域、スポーツ・健康科学を始めとした自然科学領域の研究にも寄与・貢献し、さらには知的再創造のイノベーション研究や超領域科学研究への発展的拡がりが期待できる。これらの新しいカテゴリーの研究はすでに始まっており、「書道を科学する」をテーマに、モーションキャプチャを用いた実験で得たエビデンスから、書道の効果を運動学的、心理学的、生理学的に検証する取り組みがスタートしている。加えて本学は国際的な研究教育の発展や学術及び文化の交流を推進してきた歴史を持ち、本事業の実現により、さらなる国際的な経済・社会の発展、科学技術の進展に寄与が可能となる基盤がある。国際的な取組として、中国・台湾等海外の研究教育諸機関との協定による共同研究の推進、海外での書道のワークショップの実施等を国際交流センターが中心となり計画している。本学の理念である「アジアから世界へ」をキャッチフレーズに永年継続している研究交流に加え、日本・中国・台湾・ASEANなどアジア圏での書道を通じた学生交流、シルクロードを辿った西の終着点となる欧州においても、書を通じた“道”の邂逅と昇華を試みる。このように、本事業は、日本国内での「漢学」、「書道」の研究にとどまらず、東洋の思想を基軸とした国際的な研究教育・社会発展に寄与できる可能性を秘めている。

【「5. 年次計画」も踏まえつつ、研究成果や研究成果が寄与する範囲について実現可能性があるか。】

東洋人の“道”思想、東洋の“人文主義”文化研究の活性化を推進することから、次の研究成果が期待される。

- 『大東文化大学漢籍総合目録』と『大東文化大学書跡総合目録』の作成とWEB公開（A・B）
- 「大東文化大学草創期の教員」のWEB公開（大東文化大学百年史編纂サイト「継往開来」）（C）
- 『“道”研究論集』の発刊（D）
- 『東洋研究』特集号の発刊（E）
- 「拓本コレクション」のデータベース化とWEB公開（F）
- 社会科学領域と漢学との共同研究による経営・企業倫理の探求（G）
- 自然科学領域と書道との共同研究による書道技法の科学的分析（H）

上記は、各チームの実現予定の研究成果であるが、この成果を基に次のような全学的な学際的研究拠点を形成してイノベーション研究を行い、「東洋人の“道”」研究教育を推進する。

- 知的資源の公開を推進する「大東文化大学漢籍・書跡デジタル・アーカイブス（仮称）」のWEB公開
- 東洋研究所・書道研究所・大東文化歴史資料館の研究成果の公開を推進する学際的研究拠点「大東文化大学先端学術研究機構（仮称）」の設置
- 知的資源を総合的に公開する「大東文化大学百周年記念WEBミュージアム（仮称）」の開設
- 大東文化大学オリジナル教科書『論語』『書道』『自校史』などの発刊
- 「Daito BASIS」（漢学と書道、自校史などの“道”と“書”の関連科目）を開講し、在学生に研究成果を還元
- アジア圏及び欧州圏での書道を通じたワークショップの開催

3. ブランディング戦略（5ページ以内）

I. 大学の将来ビジョンとその実現に向けたブランディング

本学は、財団法人大東文化協会によって1923年に設立された大東文化学院を前身とする大学であり、今日の国会に相当する帝国議会を通過した「漢学振興ニ関スル建議案」の趣旨を具体化するために設立された大学である。建学にあたっては、「漢学（特に儒教）を中心として東洋の文化を教授・研究することを通じて、その振興を図ると共に儒教に基づく道義の確立を期し、更に東洋の文化を基盤として西洋の文化を摂取吸収し、東西文化を融合して新しい文化の創造をめざす」（1985年『大東文化大学の建学の精神』学園長期研究教育計画策定委員会報告書）が掲げられた。この建学の精神は、社会の発展と時代の変化の中で検証されてきた。『中期経営計画「CROSSING」（2009-2023）』（2008年理事会）では、「東西文化の融合」を「多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」と読み替えられた。これは、1990年代に始まり、21世紀に入って加速するグローバル化の現状と課題に対応する新しい理念として打ち出したものである。さらに創立百周年に向けて策定した大東文化大学将来基本計画「DAITO VISION 2023」（2014年2月17日）には、欧米を含む世界に広げ、国際的な視野に立った研究と教育を特色としていることから、「アジアから世界へ多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」を大学の理念として掲げている。しかし、本学が真に「アジアから世界へ」国際的な視野に立った研究と教育を特色とし、「多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」を目指したブランド化を形成し推進していくためには、今一度「アジアに軸足」を置いた研究教育体制を整備して展開する必要がある。

「東洋の文化」の研究から出発した本学の歴史においては、建学の精神たる「漢学振興」の伝統を直接的に引き継ぐ「文学部中国文学科」「文学研究科中国学専攻」、また日本唯一ともいえる書道学の学位を授与する「文学部書道学科」「文学研究科書道学専攻」は、国内外（日本、中国、台湾、韓国）に大学教員、研究者、学芸員を多数輩出している。特に本学の書道教育は、わが国を代表する各領域の現代作家、書学の第一人者が多数教壇に立ち、2000年の文学部書道学科創設以降は専任教員11名を含む50名前後の教授陣を擁して、多くの書家と研究者の継承者を育ててきた。さらに、本学の研究組織である書道研究所は日本で唯一の書道専門の研究機関であり、「高校生のための書道講座」や「日中書法文化伝習塾」をはじめ各種書道文化事業を展開してきたほか、国内で唯一大学で発行される月刊誌『大東書道』は1969年の創刊以来約50年の歴史を持ち、現在会員は全国で7,000名を超えている。

このような「漢学・書道」の研究と教育に最も大きな特色と実績を持つ本学は、「アジアから世界へ」、「多文化共生」の理念のもと、創立百周年にむけたあるべき姿として「DAITO VISION 2023」に6つのビジョンを掲げている。

大東文化大学将来基本計画 DAITO VISION 2023	
6つのビジョン	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的な学びにより、大東学士力を育てる「教育の大東」を実現する 2 自主・参加・共同による学生生活を支援する 3 「開かれた知の共同体」をつくり、大東文化らしい高度な研究を創造する 4 国際的な学術・教育のネットワークの拠点となり、世界に向けて発信する 5 「学術の中心」として地域と連携・共同し、社会の発展に貢献する 6 人権と自由を尊重し、公正な大学運営を行い、社会に信頼される組織となる

「DAITO VISION 2023」には、建学の精神を読み解き、育成しようとする能力と人格として、「大東学士力」5か条を掲げている。（1）地球規模の視野と感覚を持ち、異文化への理解・共感力、コミュニケーション能力を持ち、諸問題の解決に貢献できる。（2）豊かな人間的教養と高度な専門的知識・技術を持ち、現代社会の諸問題にチャレンジできる。（3）修得した専門的知識と技能を使って、社会の中核・中堅として、その発展に貢献する意欲と能力を持っている。（4）自分の意見を持ち、それを適切に表現し、他者と協力・共同する能力を持っている。（5）大東人として、また人間としての誇りと自信、社会の担い手としての強い使命感・モラルを持ち、行動できる。

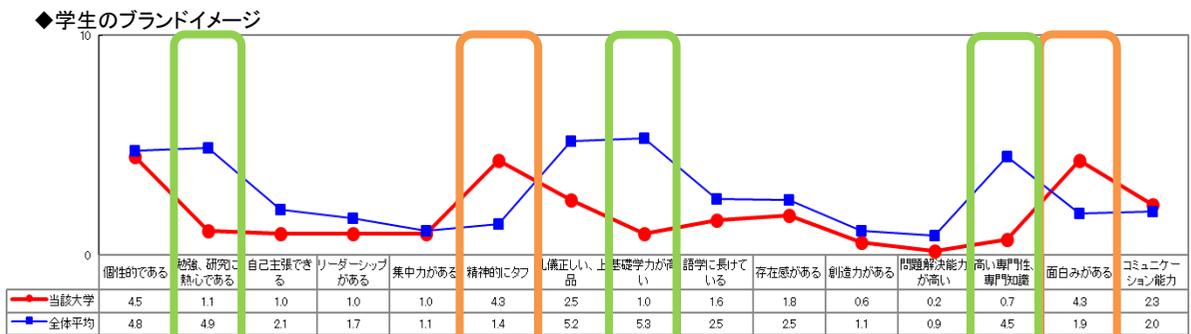
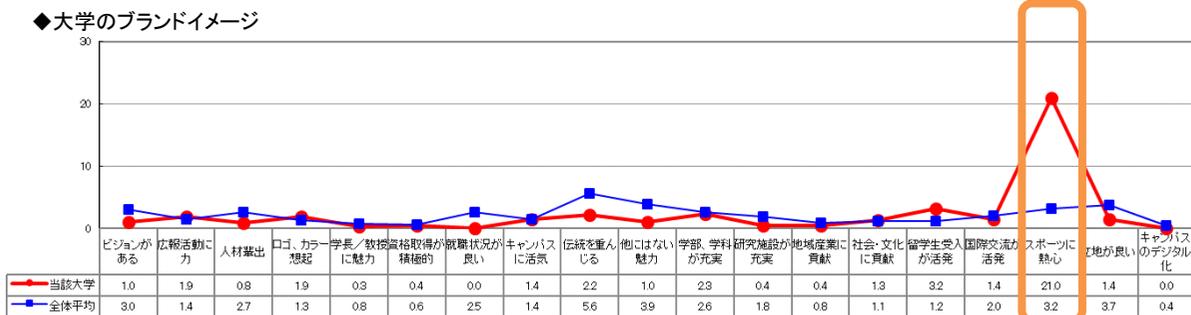
本事業で打ち出す「漢学・書道の学際的研究拠点の形成による「東洋人の“道”」研究教育の推進」は、この5項目のいずれとも関連しているが、特に密接に関連するのは（5）である。『論語』の教えをはじめとする「人として踏み行う道」すなわち東洋人の“道”思想と文化を学修することによって、強い使命感・モラル（道義心）が涵養されるからであり、これに拠って（1）のコミュニケーション能力と（4）の協力・共同する能力も養成される。また「漢学・書道」研究自体は、教育へ還元することで、（2）の技術や（3）の技能とも関連する。この独創性の高い教育の価値・魅力を「東洋人の“道”を育てる大学」というブランディングで伝えていくことにより、多くの学生・ステークホルダーの学びの喚起につなげ、その学びを経て、人が育ち、ひいては、これらビジョンの実現に寄与するものと確信している。

なお、将来基本計画「DAITO VISION 2023」は、理事会等での機関決定を経て2014年2月17日に制定され、すでに周知の内容であり、本事業の研究内容及びブランディング戦略についても、すでに学内の会議体及び学内ポータルサイト等を通じて全学的に周知されている。

II. ブランディングにおける本学の課題

本学は創立時から「漢学・書道」研究に取り組み、国内外でも有数の実績や知的資源を誇っているが、実際にはこの特徴が広く伝わっておらず、メディアに取り上げられやすい「スポーツ」のイメージが先行している。特に「書道」は、国内有数の教授陣に加え、多くの著名な書家を輩出しており、また日本唯一の「書道学」の学位を授与し、書道専門の研究機関（書道研究所）を組織している。このため、書道に馴染みのある人々に対しては「書道の大東」というブランド評価が確立しているものの、他のステークホルダーを含めた社会全体まで浸透しているとはいえない現状にある。独自に実施した2016年4月～5月実施「大東文化大学非出願者アンケート」や2014年から2015年にかけて実施した『日経BPブランドイメージ調査』（※下記に抜粋を掲載）でも、「運動部以外の学生の実態がわからない」「スポーツ以外の特徴を明確化すべき」などの声も多く聞こえた。したがって、本事業において、本学の建学の精神に根差した特色である、「漢学」や「書道」のブランドイメージの拡充はもとより、研究教育の果実としての「東洋人の“道”」ブランドの確立と定着は、高等教育機関としてのイメージ向上という本学のブランディング戦略を行う上で急務である。（本計画書提出に先行して既にプレスリリースを開始している。「大東文化大 書道と漢文でAIを超える学び拓く（平成30年5月16日付産経新聞朝刊）」・「大東文化大学が「書道が人体に及ぼす影響」について実験・検証を実施 - 人間の内面を“見える化”することを目指す「超領域研究」の試み（平成30年7月5日付大学プレスセンター）」）

【参考】『日経BPブランドイメージ調査(2014-2015)』「大学個別分析②学生の父母編 大東文化大学」



※グラフから大学のブランドイメージとしてはスポーツに熱心であることが全体平均と比べて著しく高く、学生のブランドイメージとしては研究・専門性・基礎学力の高さなど研究・学問に対するイメージが低いことがうかがえる。（なお、上記のグラフは②学生の父母編のものであるが、①有識者編、③教職員編でも同様の傾向がみられる。）

III. 事業に関連するステークホルダー

本事業を推進するにあたり、ステークホルダーを検討し、全4群を設定した。

第1群. 国内外の大学・研究機関・教育機関

本学が所蔵する漢籍は、現在では入手困難なものや、中国・台湾にも見当たらないものなどがあり、書誌学的にも貴重な資料を含んでいる（「大東文化大学別置目録（大河内文書/高島蔵書/前川蔵書）」等）。また書跡では、金石拓本類・古筆類のほか、近現代作家の代表作や書き下ろし作品を多数有している。（「大東文化大学書道研究所蔵宇野雪村文庫拓本目録」等）。漢籍・書跡の所蔵品の一部はすでに目録を刊行しているものの、なお未刊行が多く、これらをデジタル・アーカイブス化し、広く公開することは、国内外の研究機関や大学の研究者に有益であり、漢学・書道研究を活性化させる。また、現在、中国社会科学院歴史研究所、中国美術学院や国立臺灣藝術大學を始めアジア文化圏を中心に約100校の協定校があり、共同研究が活発になれば、本学の研究力と国際競争力も高まる。大学や専門機関などでの活用の拡大は、その専門性の評価と言えるため、「漢学・書道の学際的研究拠点」さらには「道」と「書」の分野において確固たる地位を築くことにつながる。

第2群. 在学生・卒業生・保護者

漢学と書道の研究・教育は、ひいては「東洋人の“道”」思想や「東洋の“人文主義”」文化を学び、探究することであり、それがもたらす人格の成長は、人文科学的課題が山積する現代社会を生き抜くには必要不可欠である。デジタル・アーカイブス化した知的資源は日常の学びの場でも活用していくことができる。創立百周年（2023年）を目途として、人文科学系の学生はもとより、全学生が備えるべき知識・技能を「Daito BASIS」としてまとめ、全学部を開講することとして検討を進めている。本事業の関連科目である、漢学、書道と自校史などは、この「Daito BASIS」の中核的科目として計画されており、その学びの経験は、学生の一体感や母校への誇り・愛着へとつながる。また上記の取り組みは、保護者の本学への関心の高まりや卒業生の母校に対する再発見を喚起し、「道」ブランドの浸透に大きく貢献する。

第3群. 受験生・保護者・高校教員・留学生・企業

漢籍・書跡という古典を深く精査し、イノベティブな研究とその教育に発展させることは、「漢学・書道」ブランドのイメージ喚起につながる。そして、本事業がもたらす、独創性の高い教育の価値・魅力を「東洋人の“道”」思想として教育に還元することは、「漢学・書道」に関心が高い受験生は言うまでもないが、それらを通じた東洋思想の教養は、次代を担う受験生（高校生）すべてに必要な学びとなる。また、「経営道」の研究は当然、企業研修等に意義のあるものであり、「漢学・書道」は漢字に関心が高い海外学生の留学希望にも寄与する可能性がある。これらステークホルダーは、将来に渡る自己成長の基盤となる学問の受け手となりうる。

第4群. 周辺自治体・地域住民・一般市民

第4群は、地域連携事業・公開講座事業への参画者という側面だけでなく、いずれ、第1群～第3群につながる可能性もある。本事業を通じて、本学の独自色を明確にし、認知を拡げていくことは、将来的な「漢学・書道」の文化的発展や「東洋人の“道”」思想の普及には必要不可欠であり、その学問的価値、芸術的価値に触れる機会を提供していくことで、「漢学・書道」についての一般社会への社会的な価値の再発信にもつながる。

IV. 浸透させたいイメージと施策

本事業の目的は、本学の特色である「漢学・書道」研究に係る知的資源の総点検とデジタル・アーカイブスの構築により研究拠点を形成し、それらを活用した他分野との学際的イノベーション研究教育を推進することで、「東洋人の“道”を育てる大学」という建学の精神に根差した大学ブランドを定着させることにある。まずは、特に関心の高いターゲット群を選定し、東洋人の“道”を育てる基盤としての「漢学と書道」を入口に、適したメッセージを発信することで、その浸透を図る。

第1群. 国内外の大学・研究機関・教育機関**1) イメージ：「漢学・書学の研究資源が充実している大東文化大学」**

研究者の養成については、本学大学院文学研究科（中国学専攻・書道学専攻）の厳正かつ緻密な研究指導が国内外への多数の優秀な研究者輩出に寄与しており、教育機関としては高い評価を受けているが、漢学・書学の研究においても大東文化大学はトップレベルであるという評価を各研究機関から受けることを目指す。

2) 施策

i) 貴重な漢籍や書跡の掲載にとどまらず、その歴史的・文化的背景に係る文献や研究も収めるなど実用性の高い総合的なデジタル・アーカイブスの構築を行い、その活用のための情報発信を行う。研究成果の積極的な発表も試みる。

ii) 東洋文化の中心としての漢学の原典資料を読解することを通じて、他の学問に基礎となる視点を提供し、本学の誇るべき遺産である漢籍読解と東洋学研究における資料の整理・読解に関わる学問的知識を、社会と教育の場に提供するとともに、継承者の育成を目指す。

★具体的方策：専門家が集まるタッチポイントでのアーカイブス構築や研究の進捗の積極的な情報公開（学会・会報誌での告知、専門情報紙・誌へのPR、国際的シンポジウムの立ち上げ、ニュースリリース等）

第2群. 在学生・卒業生・保護者**1) イメージ：「漢学・書学を通じて東洋思想を学べる大東文化大学」**

日本トップクラスの漢学・書学の研究教育を通じた“道”の学びの価値を（再）認識させ、儒学等から学べる“時代を生き抜く知恵と思考”を身に着け、自身のアイデンティティ・誇りの醸成を企図する。ひいては、大東文化大学の広報的役割を担うことを理想とする。

2) 施策

「Daito BASIS」（推奨科目）の開講やそれに関する情報提供によって、自分たちが何気なく触れている知的資産の価値を知り、東洋人としての“道”を見つめ直すきっかけとなる機会の提供。

★具体的方策：①本学の学生団体等と連携し、計画段階から学生を巻き込む学内広報施策の検討（大学新聞、OB会誌、SNSやHP、アーカイブス、アプリ等での初心者向け漢学・書道関連コンテンツの企画・制作・発表等）②学部学科をまたいだ大学紹介コンテンツの配布・配信（オウンドメディアでの情報発信、新入生配布用小読本の発行、大学主催の漢学・書道を学ぶ体験学習ツアー等）

第3群. 受験生・保護者・高校教員・留学生・企業**1) イメージ：「漢学・書学のイノベーション研究が面白い大東文化大学」**

将来どのような学問を志すか“選ぶ”（あるいは進路を指導する）立場である受験生・保護者・高校教員・留学生は、自己（または子どもたち）の成長や学びへの関心が高い。漢学・書道を志す者には、漢籍・書跡という古典を深く精査することの面白さを伝えることが肝要であるが、それ以外の進路を志向している者および企業に対しては、漢籍・書跡という東洋の古典そのものの学術的価値よりも、これら古典を他の学問分野と掛け合わせて学ぶ価値と合わせて訴求する。これにより、本群のステークホルダー全体に「漢学」「書学」「東洋文化」等が自身と接点のある学問であるというイメージを喚起する。

2) 施策

具体的に何が得られるかが求められるため、テーマとしての面白さに加え、カリキュラムや大学生活によってできるだけ自己成長のイメージがわくような形で、また理屈より直感的な面白さが伝わる事例を紹介し、学びの楽しさ、その欲求を引き出す。(例1:「経営道」:経営者における東洋思想の活用方法等)

(例2:「書道を科学する」:書道の効果を心理学的、運動学的、生理学的に検証する等)

★具体的方策:①本事業の特徴と魅力が伝わる情報の発信 (PR活動、SNSやHPなどオウンドメディア、新聞、雑誌などでの広告、アーカイブスのコンテンツ等) ②本学が輩出した人材を通じて現代社会における漢学と書道の価値をメッセージ発信 (新聞・雑誌広告、SNSやHPなどオウンドメディア等) ③漢学・書道への関心喚起を目的とした高校生向け学習コンテンツや体験授業のしくみづくり (アニメや漫画・歴史キャラクターの活用、SNSやHPなどオウンドメディアでのWEB講座等)

第4群. 周辺自治体・地域住民・一般市民

1) イメージ:「漢学・書学なら大東文化大学」

i) 広く一般に向けては、まず第一に本事業の前提たる「漢学の大東」と「書道の大東」のブランド普及を図り、本事業と大学イメージを直結させる。

ii) 漢学・書学とその“道”や芸術性への理解を試みることで、学びへの共感と共に、その学び舎から巣立つ学生への信頼を蓄積していく。

2) 施策

漢学と書道に親しむきっかけや本学の学生や教員との接点づくりを中心にコミュニケーションを行う。

★具体的方策:①芸術や趣味としての漢学・書道の解説や講座等初心者向けコンテンツの発信 (SNSやHPなどオウンドメディア、新聞・雑誌広告、アーカイブ等) ②本事業の取り組みの紹介 (SNSやHPなどオウンドメディア、PR活動等) ③大東文化大学との接点作り (学園祭での見学会、地域での漢学・書道セミナー等)

研究ブランディング戦略 ロードマップ

年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
研究活動	大東文化大学が所有する東洋の知的資源の総点検・精査		学術芸術文化研究の基盤整備	デジタル・アーカイブに基づいたイノベーション研究の推進	学際的研究拠点を設置し、研究成果を国内外に発信
	<ul style="list-style-type: none"> ・漢学 (漢籍) ・書学 (書跡) ・自校史 ・“道”に関する文献 ・東洋学研究に係る原典資料、訳注刊行物 		<ul style="list-style-type: none"> ・知的資源のデジタル・アーカイブ化を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・“道”に係る知的再創造 (社会科学系・自然科学系分野との共同研究) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大東文化大学先端学術研究機構の設置 ・デジタル・アーカイブの完全公開
ブランディング基本戦略	「東洋人の“道”を育てる 大東文化大学」				
	漢学・書学の新たな研究取り組みを学内外へ宣言	漢学・書学の知的資源に関する情報発信・各種施策の実施 ⇒「漢学・書道の大東」の認知度・ブランド力向上		漢学・書学から学際的に発展した“道”に係るイノベーション研究活動への期待醸成	「道」と「書」という研究分野のリーディング大学という地位の確立
第1群. 国内外の大学研究機関教育機関	「漢学・書学の研究資源が充実している大東文化大学」				
	<ul style="list-style-type: none"> ・漢学・書学研究の発展に向けた、新たな研究取り組みの進捗発信による継続的な期待醸成 (学会発表、研究論文・刊行物の発行、シンポジウムの開催 等) 				<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル・アーカイブの完成報告と活用喚起 (プレスリリース、研究誌発刊等)
第2群. 在学生卒業生 (保護者)	「漢学・書学を通じて東洋思想を学べる大東文化大学」				
	<ul style="list-style-type: none"> ・「論語」「書道」等の授業を通して、東洋思想における「人として踏み行う道」を学ぶ ・“道”に係る新たな研究活動への参画喚起 ・東洋人の“道”教育関連科目の開講、SNS、HP、大学新聞等での情報発信 				<ul style="list-style-type: none"> ・当該授業履修者や研究活動の参加者の反応を発信 (アンケート、大学新聞、HP 等)
第3群. 受験生 (保護者) 高校教員 留學生 企業	「漢学・書学のイノベーション研究が面白い大東文化大学」				
	<ul style="list-style-type: none"> ・漢学・書学研究の価値・魅力の訴求 ・“道”に係る新たな研究活動の紹介 = 古典の難しいイメージより、直感的に学びの楽しさを伝える (例: 書道の科学) (SNS、HP、オープンキャンパス 等) 				<ul style="list-style-type: none"> ・漢学・書道の魅力や研究活動の参加者の反応を発信 (アンケート、大学新聞、HP 等)
第4群. 周辺自治体 地域住民 一般市民	「漢学・書学なら大東文化大学」				
	<ul style="list-style-type: none"> ・大東文化大学 = 漢学・書学研究への認知拡大 (大学新聞、学校見学、社会貢献活動 等) ・漢学・書学への文化的関心喚起 (書学講座、セミナー、イベント 等) 				

VI. 工程ごとの成果指標と達成目標・進捗把握

ブランディングに関する工程ごとの成果指標と達成目標は下表の通りである。
 進捗状況の管理については、ブランディング戦略を担う「ブランディングチーム」で実施する。適宜、研究活動の成果をうけとりつつ、四半期ごとに開催される、事業全体を統括する「研究ブランディング事業プロジェクト連絡会議」にて状況の報告を行い、計画の調整を実施する。（進捗状況を把握する方法については、後述の「◆年間のPDCAの流れ」を参照）

成果指標と達成目標					
年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
ブランディング基本戦略	漢学・書学の新たな研究取り組みを学内外へ宣言	漢学・書学の知的資源に関する情報発信・各種施策の実施 ⇒『漢学・書道の大東』の認知度・ブランド力向上		漢学・書学から学際的に発展した“道”に係るイノベーション研究活動への期待醸成	「道」と「書」という研究分野の「デザイン」大学という地位の確立
ステークホルダー					
第1群 国内外の大学・研究機関・教育機関	・プレスリリースの定期配信数 ・ニュースレターの発行数	・本事業の多言語版HPの海外からのアクセス数	・アーカイブコンテンツ数 ・コンテンツアクセス数 ・シンポジウム、公開講座参加者数		・論文数、学会発表件数 ・大学イメージ調査(研究力・漢学・書道など学業に関する項目指標) ・WEBミュージアム閲覧数
第2群 在学生・卒業生・(保護者)	・プレスリリースの定期配信数 ・ニュースレターの発行数 ・電子掲示板、大学新聞、学内情報誌等を利用した情宣活動の実施数 ・全国保護者会（青桐会）での本事業の周知 ・卒業生アンケートでの漢学・書道研究に関する認知度	・Daito BASIS（推奨科目）の履修状況	・アーカイブコンテンツ数 ・コンテンツアクセス数 ・シンポジウム、公開講座参加者数		・大学イメージ調査(研究力・漢学・書道など学業に関する項目指標) ・WEBミュージアム閲覧数
第3群 受験生・(保護者)・高校教員・留学生・企業	・オープンキャンパス・高校訪問での本事業の周知数 ・アンケートでの漢学・書道研究に関する認知度 ・オープンキャンパスでのブース来訪者数		・アーカイブコンテンツ数 ・コンテンツアクセス数 ・シンポジウム、公開講座参加者数		・大学イメージ調査(研究力・漢学・書道など学業に関する項目指標) ・WEBミュージアム閲覧数
第4群 周辺自治体・地域住民・一般市民	・プレスリリースの定期配信数 ・ニュースレターの発行数 ・漢学・書道に関する公開講座開講数・受講者数 ・機関誌・イベントでの発表数		・アーカイブコンテンツ数 ・コンテンツアクセス数 ・シンポジウム、公開講座参加者数		・大学イメージ調査(研究力・漢学・書道など学業に関する項目指標) ・WEBミュージアム閲覧数

4. 事業実施体制（2ページ以内）

【学内の実施体制について】

《全学的な研究推進体制》 本学における研究活動を推進し、その活性化を図るとともに、研究に関しての全学的な方針を定め、本学の研究支援体制を整備するため、「全学研究推進委員会」を置いている。構成メンバーは学長を委員長とし、副学長、学務局長、全学部長、全研究科委員長、東洋研究所長、書道研究所長、大東文化歴史資料館長からなる。本委員会にて、事業全体の計画や活動内容について報告を受け、必要な事項の承認を行う。また、事業全体が全学の方針や事業の趣旨に沿って適切に運営されているかの評価を行う。

《研究活動》 「2. (2)期待される研究成果」で述べた合計8つの研究チームが、各テーマの研究計画・研究の実施・事後の評価・次の研究計画への反映を進めていく。また、各チームの研究活動の統括（各チームの計画および進捗状況・事後評価の把握）を「研究ブランディング事業推進プロジェクトチーム」（以下、研究プロジェクトチーム）が行い、研究活動全体の調整とブランディング戦略との連絡調整を実施していく。

《ブランディング戦略》 すでに定められている全学的な将来ビジョンや学長方針に従い、総務課・総合企画課・入試広報課がタスクチーム（以下、「ブランディングチーム」）となり、ブランディング戦略に関する目標・計画・事前の評価指標の設定から、ブランディング戦略の実施・効果の測定と新たな計画の策定等を、研究プロジェクトチームの成果を受け取りつつ行っていく。2023年に迎える創立百周年の記念事業準備委員会とも連携をとり、全学体制でブランディング戦略を推し進めていく。

《事業全体》 研究活動およびブランディング戦略それぞれの事業計画をとりまとめ、事業全体として進捗管理や調整をするのは「研究ブランディング事業プロジェクト連絡会議」（以下、連絡会議）である。本会議は各チームの合同会議であり、全学研究推進委員会に半期毎に進捗報告を行い、年に1回事業全体としての評価を受ける。また、事業として課題事項などが発生した際には速やかに上部機関である全学研究推進委員会に報告する。

《研究支援体制》 研究に関する情報収集・事務手続・研究費執行等の研究支援は全学的な研究支援を担当する学務課を中心として、各研究チームが所属する学部、大学院や研究所の事務室、資料を有する図書館の事務部が行う。



【自己点検・評価および外部評価体制について】

《研究活動、ブランディング戦略の自己点検》研究活動については、各研究チームごとに、年度始めに年次の活動計画および活動目標、目標の達成指標を策定する。これらの研究計画は研究プロジェクトチームでとりまとめ、四半期毎に連絡会議にて進捗状況の確認を行う。年度末から翌年度始めにかけて、当該年度の研究活動に関する自己点検を研究プロジェクトチームにて実施し、報告書を作成する。ブランディング戦略については、ブランディングチームにて同様の点検活動(年度始めの計画、四半期毎の連絡会議での進捗確認、年度末からの自己点検・報告書作成)を行う。

《事業全体の自己点検》年度始めに研究活動、ブランディング戦略それぞれの計画と目標を連絡会議で統括する。その際に事業全体として進捗上留意すべきマイルストーン(計画の進捗上目標となるタスク、評価指標に対する実績状況など)を設定し、以後四半期毎の進捗管理を実施する。年度末から年度始めにかけては各チームから提出される自己点検報告書を基に、連絡会議にて、事業全体としての自己点検を実施する。

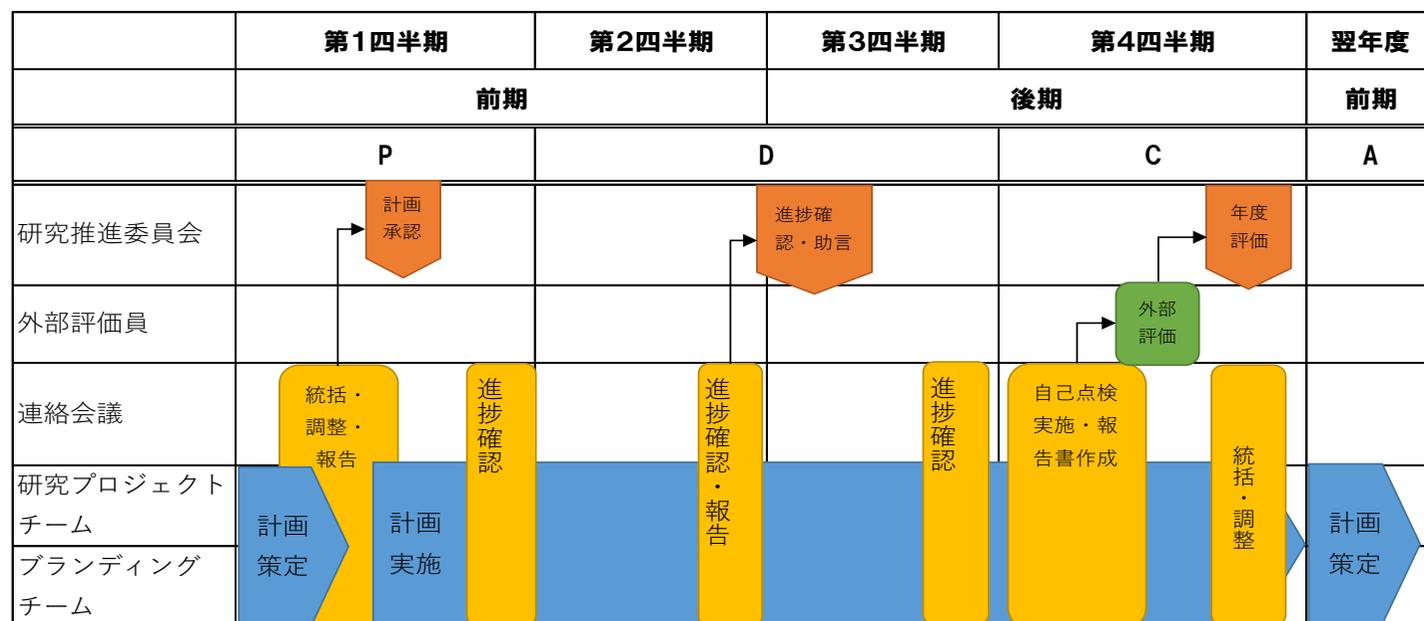
《事業の外部評価および全体評価と助言》連絡会議で作成した自己点検報告書を基に、外部有識者による評価を実施する。すでに5年間に渡る外部評価を依頼し、承諾を得ている。自己点検報告書及び外部評価の内容を基に、「全学研究推進委員会」において事業全体が全学の方針や事業の趣旨に沿って適切に運営されているか、評価を実施し、必要に応じて助言・勧告を行う。評価結果および助言・勧告は、翌年度の研究計画に反映される。

【学外との連携体制について】

すでに次の外部有識者に外部評価を依頼し、承諾を得ている。また、海外の協定校を中心として中国・台湾等海外の研究教育諸機関との協定による共同研究の推進等を国際交流センターが中心となり計画している。

- ・ハーバード大学教授（日本美術史）1名
- ・東京大学教授（中国美術史）1名
- ・東京藝術大学教授（日本画家）1名
- ・高等学校教諭（本学卒業生）2名
- ・特別支援学校教諭（本学卒業生）1名

◆年間のPDCAの流れ



5. 年次計画 (3 ページ以内)

2018年度

目標

【研究目標】

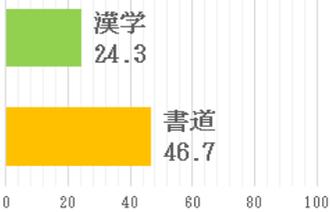
大東文化大学が所有する東洋の知的資源の総点検とアーカイブス体制の起動 (達成度指標: 知的資源の総点検の実施状況とアーカイブス体制の確立)

【ブランディング戦略目標(宣言から周知へ)】

漢学・書道の新たな研究取り組みによる「東洋人の”道”を育てる大学」の宣言と学内外への周知 (達成度指標: 下記新聞記事を始めとしたプレスリリースの件数及び各種アンケートによる「漢学」・「書道」ブランドの認知度調査等) ※産経新聞の同紙面担当者より、転載の承諾を得ている。

本学が「漢学」・「書道」の研究教育を行っている大学というイメージはありますか?

(大いにある) ※表示は%



上: (抜粋) ステークホルダーアンケート結果 (平成30年7月3日現在)

右: 産経新聞朝刊 平成30年5月16日付 <https://www.sankei.com/life/news/180516/lif1805160006-n1.html>

書道と漢文でA I 超える学び拓く

「その道の才能を伸ばすために大学に進学する。つまり成果を上げたい学生は多い。進捗が後者の場合、スポーツも芸術でも、精神面の強さが重要視されますが、人間の肉體、精神面は最も不可思議な世界です。A I (人工知能) とは、何かが「書道」を、そして「世界を問う」ことに芸術やスポーツを問うて探求する過程で大学の存在意義があると考えています。大東文化大学は創立50周年を迎える。その記念事業の一環として検討されているのが漢文と書道を一体化して伝える研究です。明治維新後、欧米の学問体系が本格的に輸入されたが、漢文と書道は分断された。それまでは一つの学問だったという。ま

河内利治副学長(中央)が完成させたのは、河内副学長や河内教授、河内教授の学生たち「論語」にある言葉「恕」がその作品の主題だ(東京新聞朝刊の大東文化大学(吉澤良大撮影))

「多文化共生を先んじて、英語は非常に重要ですが、英語の文化や伝統を知らなければ、他国の文化を真に理解し、尊重することはできません。現在のグローバルの議論の場は、英語で議論されているのが現実です。英語のコミュニケーションを取ることは、その後の内容に終始してはいけません。大正中期後期、本学設立が準備された時にもまだ、類の問題を抱えていた。門脇先生は、論語は決して難な書物ではない。漢文の教養は、いまも日本の礎に生きています。一つの人が、早稲田が生き残り続けるとして、早稲田(悪い)の心である。『東日本大震災』で、被災地を巡り、さまざまな場所で漢文や和歌を学びたいという人が増えています。『東日本大震災』で、被災地を巡り、さまざまな場所で漢文や和歌を学びたいという人が増えています。『東日本大震災』で、被災地を巡り、さまざまな場所で漢文や和歌を学びたいという人が増えています。

実施計画

【研究実施計画】(※A~Hのチームの詳細は「2. (2)期待される研究成果」に記載)

- 漢籍・書跡・自校史等の知的資源の総点検(A・B・C)
- 未完成の漢籍(「麓保孝旧蔵書」等)目録と写真(図版)作成(~2019年度)(A)
- 書道学科の創設20周年及び書道研究所の創設50周年に向けた記念所蔵品展の準備及び記念図録の刊行準備(~2019年度)(B)
- 本学草創期の教員(20~30名)の活動や業績等の調査・研究(期間中継続実施)(C)
- 儒家・道家を中心とした”道”に関する資料収集と研究(期間中継続実施)(D)
- 漢籍を中心とした東洋学研究資料の訳注などの刊行(期間中継続実施)(E)
- 拓本コレクションのデータベース化に向けた総点検(F)
- 経営と”道”に関する資料収集と研究(期間中継続実施)(G)
- ”書”の科学的実験データの収集と研究(期間中継続実施)(H)

【研究実施計画達成基準】(継続実施の計画は達成指標を上げることを図る)

- ◇知的資源の研究基盤整備のための総点検 70%以上完了(A・B・C・F)
- ◇書道学科・書道研究所の周年事業実施準備 60%以上完了(B)

【ブランディング実施計画】

- [毎年度実施] プレスリリースの定期配信、ニューズレターの発行、学内の電子掲示板等を利用した情宣活動の実施、オープンキャンパス・高校訪問での本事業の周知、全国保護者会(青桐会)での本事業の周知、公開講座での広報
- [本年度実施] ①研究ブランディング特設WEBサイト(以下特設サイト)を開設し、特に貴重な漢籍・書跡のデジタル化を先駆けて実施し、公開②併せて大学新聞に掲載(進捗状況等の連載企画の開始)③在学生に向けて漢学と書道、自校史などの”道”と”書”の関連科目を「推奨科目」として指定する(「Daito BASIS」)④書道を通じた国際交流資源の検討

【ブランディング実施計画達成基準】

- ◇「3. ブランディング戦略 IV. 工程ごとの成果指標と達成目標・進捗把握」に記載のステークホルダー(第1群~第4群)の成果指標を基準とする(以下、毎年実施)
- ◇特設サイトの開設及び漢籍・書跡のデジタル化の一部公開の実施
- ◇大学新聞の連載開始
- ◇在学生に「Daito BASIS」を履修推奨科目として指定した旨の周知・広報の実施
- ◇書道を通じた交流資源の検討の実施

2019年度	
目標	<p>【研究目標】 大東文化大学が所有する東洋の知的資源の精査とアーカイブス体制の始動 (達成度指標：知的資源の総点検完了、漢籍目録等データベース化の実施状況等)</p> <p>【ブランディング戦略目標(周知から認知へ)】 漢学・書道の知的資源に関する情報発信による研究取り組みの認知度向上① (達成度指標：特設サイトの閲覧状況等)</p>
実施計画	<p>【研究実施計画】 ■前年度総点検を実施した学内の知的資源の精査(A・B・C・F) ■書道学科創設20周年・書道研究所創設50周年記念所蔵展の開催(学内及び成田山書道美術館)と記念図録の刊行(B)</p> <p>【研究実施計画達成基準】(継続実施の計画は達成指標を上げることを図る) ◇知的資源の研究基盤整備のための総点検完了(A・B・C・F) ◇知的資源の研究基盤整備のための精査の実施 80%以上完了(A・B・C・F) ◇目録未完成の漢籍の目録データベース化及び写真(図版)データベース化完了(A) ◇書道学科・書道研究所の周年事業開催と記念図録の刊行完了(B)</p> <p>【ブランディング実施計画】 ■漢学と書道、自校史などの“道”と“書”の関連科目を「推奨科目」として開講し、在学生にブランド定着を図る(「Daito BASIS」)(~2021年度) ■多言語版特設サイト(日本語・英語・中国語)の開設 ■日本、中国、台湾の書道を通じた国際交流資源の調査及び準備</p> <p>【ブランディング実施計画達成基準】 ◇「Daito BASIS」推奨科目指定により、漢学と書道、自校史など関連科目の履修者数が、推奨指定前と比較して10%アップ ◇多言語版特設サイト(日本語・英語・中国語)の完成 ◇書道を通じた交流資源の調査の実施及び国際交流事業の準備(アジア圏) 60%以上完了</p>
2020年度	
目標	<p>【研究目標】 大東文化大学が所有する東洋の知的資源をデジタル化し、アーカイブスの運用を開始する (達成度指標：デジタル・アーカイブスの一部先行公開の実施状況等)</p> <p>【ブランディング戦略目標(認知の確立)】 漢学・書道の知的資源に関する情報発信による研究取り組みの認知度向上② (達成度指標：多言語版特設サイトの閲覧状況等)</p>
実施計画	<p>【研究実施計画】 ■「大東文化大学漢籍・書跡デジタル・アーカイブス(仮称)」、「拓本コレクション」等の一部先行公開(A・B・C・F) ■図書館の漢籍・書跡目録と合せて総合的に点検・精査し、『大東文化大学漢籍総合目録』・『大東文化大学書跡総合目録』を作成(~2021年度)(A・B) ■本学草創期の教員の活動業績等の調査・研究結果を大東文化大学百年史編纂サイト「継往開来」に公表(~2022年度)(C) ■本事業の中間報告の取りまとめをおこない、それを基にしたシンポジウム等の開催(全体)</p> <p>【研究実施計画達成基準】(継続実施の計画は達成指標を上げることを図る) ◇デジタル・アーカイブスの先行公開の実施(公開予定数の60%以上を公開)(A・B・C・F) ◇「継往開来」に研究結果の公表の開始(C) ◇シンポジウムまたは公開講座の開催 ※いずれか1回以上開催(全体)</p> <p>【ブランディング実施計画】 ■アジア圏における書道を通じたワークショップ等の国際交流事業の実施 ■データベースの公開開始を海外の協定校(約100校)に周知</p> <p>【ブランディング実施計画達成基準】 ◇アジア圏における書道を通じた国際交流事業の実施 ◇データベース公開実施の周知による特設サイトのアクセス数 20%アップ ◇「Daito BASIS」の受講者数 10%アップ(前年比)</p>
2021年度	
目標	<p>【研究目標】 デジタル・アーカイブスに基づく学際的研究拠点を形成し、イノベーション研究を推進する (達成度指標：デジタル・アーカイブスに基づく「東洋人の“道”」研究の進捗状況)</p> <p>【ブランディング戦略目標(認知から醸成へ)】 漢学・書道から学際的に発展した“道”に係るイノベーション研究活動への期待醸成 (達成度指標：イノベーション研究に係る特設サイト掲載項目の閲覧数アップ等)</p>

実施計画	<p>【研究実施計画】 ■国際シンポジウムの開催準備(全体) ■東洋研究所の創設百周年シンポジウムの準備(E) ■大東文化大学独自の漢学(論語)・書道・自校史等のテキストの開発を開始(全体) ■デジタル・アーカイブス完成に向けた準備(A・B・C・F) ■デジタル・アーカイブスを活用し、教員免許状更新講習等で書道担当現職教員への教育の質向上を図る(B・F)</p> <p>【研究実施計画達成基準】(継続実施の計画は達成指標を上げることを行う) ◇国際シンポジウムの準備 60%以上完了(全体) ◇東洋研究所百周年記念シンポジウムの開催準備 60%以上完了(E) ◇大学独自のテキスト開発 完成(全体) ◇デジタル・アーカイブス公開準備 80%以上の完了(A・B・C・F) ◇教員免許状更新講習での研究基盤を活用した講座 実施(B・F) ◇『大東文化大学漢籍総合目録』・『大東文化大学書跡総合目録』 完成(A・B)</p> <p>【ブランディング実施計画】 ■社会科学(経営道)や自然科学(書道の科学)といった他領域との共同によるイノベーション研究について状況を公表 ■欧州圏における書道を通じた国際交流資源の調査及び準備</p> <p>【ブランディング実施計画達成基準】 ◇特設サイトの閲覧数 20%アップ(前年度比) ◇書道を通じた交流資源の調査の実施及び国際交流事業の準備(欧州圏) 60%以上完了 ◇「Daito BASIS」の受講者数 10%アップ(前年比)</p>
2022年度	
目標	<p>【研究目標】 全学的な学際的研究拠点を設置して、イノベーション研究の成果を国内外に発信 (達成度指標：各種デジタル・アーカイブスの公開完了等)</p> <p>【ブランディング戦略目標(醸成から確立へ)】 “道”と“書”という研究教育分野のリーディング大学としての地位の確立 (達成指標：民間調査会社等によるブランディング調査結果等)</p>
実施計画	<p>【研究実施計画】 ■「東洋人の“道”」思想、「東洋の“人文主義”」文化の研究成果を国内外に発信するために、東洋研究所・書道研究所・大東文化歴史資料館を共同体とする学際的研究拠点「大東文化大学先端学術研究機構(仮称)」を設置 ■WEB公開を推進し、イノベーション研究拠点を確立：「大東文化大学漢籍・書跡デジタル・アーカイブス(仮称)」(A・B)、『大東文化大学漢籍総合目録』(A)、『大東文化大学書跡総合目録』(B)、「大東文化大学百年史(仮称)」(C)、東洋人の“道”に関する研究論集(D)、「拓本コレクション」(F)、経営と“道”に関する研究論集(G)、書道の科学に関する研究論集(H) ■本事業の研究成果を国内外に発信するためのシンポジウムを開催 国際シンポジウム「東洋人の“道”〈ヒューマニティー〉(仮称)」の開催(全体)、東洋研究所の創設百周年シンポジウムの開催(E)</p> <p>■大東文化大学オリジナル教科書『論語』『書道』『自校史』などを発刊し、イノベーション研究を基盤とした教育を推進(全体) ■大東文化大学創立百周年以降に向けた先端領域(超領域)研究計画を策定(全体)</p> <p>【研究実施計画達成基準】 ◇上記すべての実施計画の実施の有無を基準とする</p> <p>【ブランディング計画】 ■知的資源を総合的に公開する「大東文化大学百周年記念WEBミュージアム(仮称)」を開設 ■欧州圏で書道のワークショップ等の交流事業を実施 ■書道研究所刊行物、月刊競書誌『大東書道』にシンポジウムや講演会のダイジェスト版等の紹介画像へ誘導するQRコードを付し、活動の広報戦略の推進を図る ■開発した漢学と書道、自校史などのテキストを使用した「Daito BASIS」を開講して、大東文化大学ブランドの定着を図る ■大東文化大学創立百周年(2023年)以降に向けたブランディング計画を策定する</p> <p>【ブランディング実施計画達成基準】 ◇計画の実施の有無を達成基準とする</p> <p>【事業(全体)の評価・検証および改善】 ◇5年間の活動の評価・検証および改善</p> <p>【最終成果の取りまとめ】 ◇「東洋人の“道”」研究教育の持続的研究拠点の形成と推進</p>

6. 「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」との関連
(該当する場合のみ：1 ページ以内)

「該当なし」